

令和2年度 海岸防災林整備事業調査業務（大隅地区）の概要

1 目的

近年、南海トラフ地震の発生が懸念される中、鹿児島県南部に位置する海岸防災林（松原・板ヶ山・針山地区）を適正に整備するため、当該海岸防災林における公益的機能の維持・向上のための調査・検討を行い、基本的な海岸防災林整備方針を策定した。

2 再生・整備目標及び方針

大隅地区の3箇所は、林帯幅が十分に確保できない問題や飛砂が確認されるなど、各地区で防災機能を考える上での課題となるべき事項が確認された。そこで、「現在の保安林機能（防災機能）発揮の課題を明確にし、機能を維持・強化した上で津波にも強い海岸防災林を目指す」ことを再生・整備目標として掲げ、各地区での課題を整理した上で整備を行う方針とした。

3 整備計画

3.1 松原地区（鹿児島県肝属郡肝付町）

当該地区は住民との密接な関わりがあり、大径木のクロマツが前線から生育しており砂浜からの景観は素晴らしいところではあるが、林帯幅が狭く飛砂害が発生している箇所やクロマツの過密箇所、マツ材線虫病等によりクロマツが衰退し防災機能が低下している箇所も見られたため、景観を保ったうえで防災機能を向上させる必要がある。そこで、管理道の海側と陸側で目標林型を定め、森林区分（海側：クロマツ林、陸側：広葉樹林）し、目標林型に応じた整備を実施する。ただし、広葉樹林へ転換を目指す林分については自然遷移が困難な箇所（ダンチク占有箇所等）は、積極的に人為的な整備を行う。また、林帯幅が十分に確保できる箇所については、管理道より海側のクロマツ下層に低木広葉樹を植栽し密度を高め、津波にも強い海岸防災林とする。

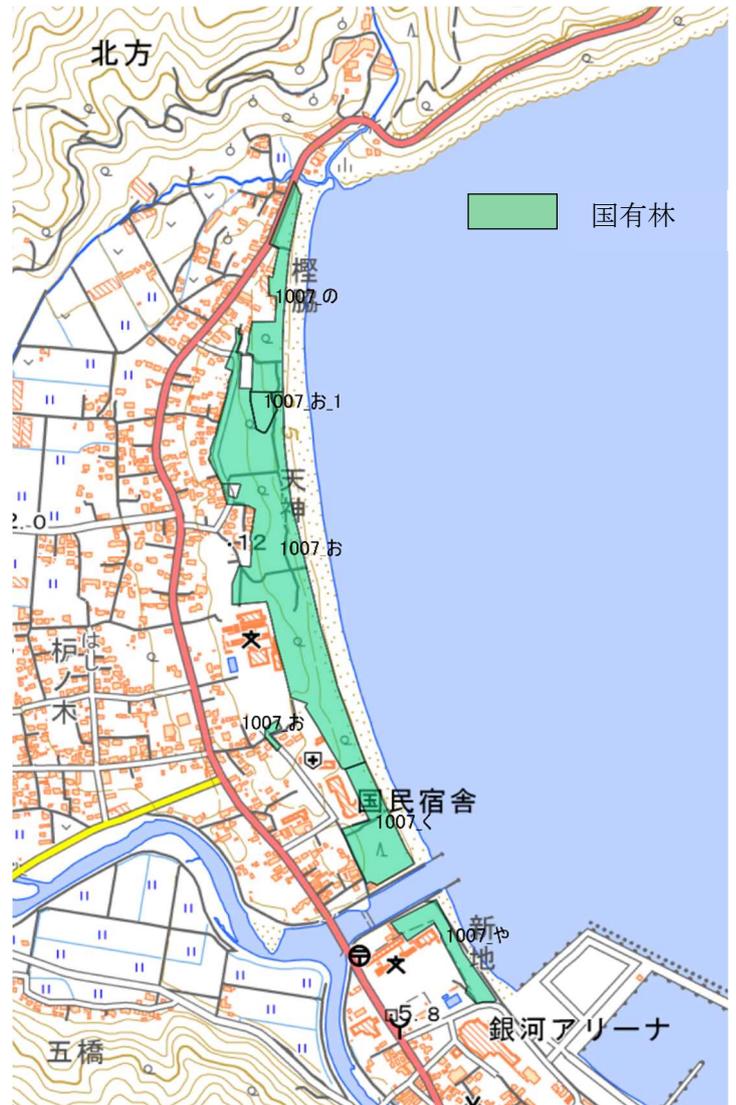


図1 松原地区

3.2 板ヶ山地区（鹿児島県肝属郡肝付町）

海岸防災林が久保田川の両岸に広がり、右岸（海側）には満潮時の汀線より高い砂丘が形成されているため、前砂丘の位置づけとして整備を行う。調査の結果、右岸の侵食等が確認されたため、前砂丘を保全する水制工や盛土等を設置し、侵食を抑制する。前線部のクロマツの過密林については本数調整伐を実施し、生育不良箇所にはクロマツを植栽する（クロマツの生育が不良の場合、低木広葉樹を植栽する）。内陸側の広葉樹林については、比較的健全な状態であるため、現状を維持する。

全体として、右岸側（海側）の前砂丘を維持し、林帯全体を健全な状態に復旧することで防災機能を高度に発揮し、津波にも強い海岸防災林とする。

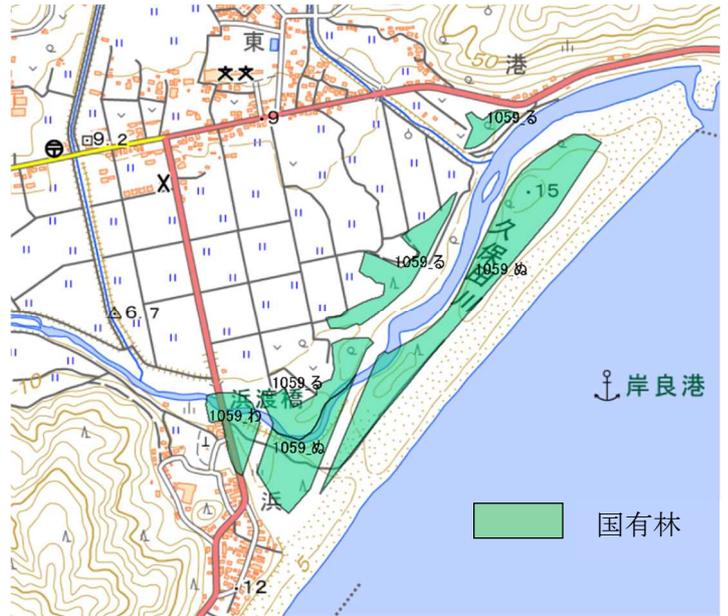


図 2 板ヶ山地区

3.3 針山地区（鹿児島県肝属郡南大隅町）

基本的に広葉樹を主体とした海岸防災林で、地形も高く維持されており、他地区と比較して課題は少ない（針山地区の針山・川尻）。しかし、針山については砂丘の脚部侵食が全面的に進んでいるため、砂丘脚部の保全を最優先とし、前線崖部の砂草衰退箇所に消波ブロックを設置する。森林整備は、一部生育不良の箇所に対し、補植（基本的には広葉樹）を実施し、林帯全体を健全な状態に復旧することで、防災機能を高度に発揮し津波にも強い海岸防災林とする。川尻については、継続して監視を行う。



針山



川尻

図 3 針山地区